

# 兵庫県のナガハナノミ・ヒラタドロムシ

(兵庫県甲虫相資料・159)

高橋 寿郎

日本産のナガハナノミ科 (Ptilodactylidae) については戦前、中根猛彦博士が“日本産長花蚤科甲虫類に就いて”(宝塚昆虫館報, No.45, 1948)なる解説文を書かれ戦後になって再び日本産の解説を発表になられた (Sci. Rep. Saikyo Univ. No.1 : 35-41, 1952., 新昆虫, 9巻, 2号, 1956)。そして1963年には原色で9属18種を図説された (原色日本昆虫大図鑑, II巻, 甲虫篇)。その他に宮武陸夫氏の研究 (宝塚昆虫館報, No.56, 1949)があったがほとんどが中根博士の研究があるだけである (1963, 1977) (Kiesenwetter, H., 1874., Lewis, G., 1895の2論文も忘れられないものである)。佐藤正孝氏も研究を発表しておられる (1968)。

一番新しい日本産のこの類の綜説と言うのではないようであるが佐藤正孝氏が発表になった日本産のナガハナノミ科目録 (1983) では9属, 22種, 9亜種が記録されている。

ヒラタドロムシ科 (Psephenidae) の方の日本産に就いての綜説の方も今の所無いようである。たゞ前記中根博士の1948, 1952年の論文の中で Eubrianax 属のものは解説されているし (Lewis の報文にもこの属は出てくる), こちらの方は佐藤正孝氏によって生態を主体にその全体を概説された報文 (インセクトリウム 9巻, 5号, 1972) と日本産の目録が発表されている (日本産甲虫目録, No.6, 1976)。これによると日本産は3属11種3亜種と言うことになる。図説は中根博士によって8種が原色によってされている (1963)。

両科の同定に就いては上記の文献類によればまづ出来るものと考えられる。生態に就いては個々の種に就いての詳しい報告は無いように思われるが中根博士は外国での記録を中心にその生態に就いての解説をされているし (1948), 佐藤氏も水棲のもの、生態の一部を解説しておられる (1972)。この方面は今後の課題であろう。

さて兵庫県下のこの類はどうか。残念ながら今迄これらの両科に就いて兵庫県での分布などに就いての報告は見当たらないようである (部分的な記録はあるが)。

資料が大変少いが現時点での県下の記録をまとめておき度いと思う。

末文ながら本報文を作製するに当って一部の種の同

定を御願ひした中條道夫博士, 久松定成氏に厚く御礼申しあげる。

Family Ptilodactylidae ナガハナノミ科

## 1. *Epilichas flabellatus* (Kiesenwetter, 1874)

エダヒゲナガハナノミ

Kiesenwetter によって *Octoglossa* 属で Kiushiu, Nipon を産地に記載された種である (Berl. Ent. Zeitschr., X VIII, 1874, p.242)。Lewis は *Epilichas* 属の種で記録されると同時に “Nagasaki (very common in the flowers of the dogrose), Nara and Kobe” を産地に挙げられている (Ann. Mag. Nat. Hist., 6, X VI, 1895, p.100)。

日本の本州, 四国, 九州に分布している比較的多くいる種と言われている。奄美大島には subsp. *amamianus* Nakane, 1952, 青森県に subsp. *mutsuensis* Nakane, 1952 がいる。

頭・前胸が赤褐・腹面が黄褐色となり上翅だけ黒い型を var. *rubicollis* Nakane (Sci. Rep. Saikyo Univ., No.1, p.35, 1952) と言うが兵庫県下ではこの変種がほとんどの様である。もっと個体数を集めて見なくてはわからないが南側の海岸線ぞいでは全く見られなく、山間部の流れのある所にいるようである。図説は中根博士のものがある (日本昆虫図鑑, 1950., 原色日本昆虫大図鑑, II, 甲虫篇, 1963)。

産地: 川辺郡猪名川町槻並 [仲田, 1978, 1982]\*。川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]。西宮市甲東園, 三田市内 [戸沢, 1936]。Kobe [Lewis, 1895]。神戸市六甲山 (1ex., 4-VI-1966), 芦谷溪谷 (1ex., 5-VI-1982)。多可郡鳥羽 (1ex., 19-VII-1975)。神崎郡笠形山 (1ex., 12-VII-1975)。氷上郡 [山本, 1958]。美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1952, 高橋, 1975]。var. *rubicollis* Nakane, 1952

産地: 多可郡鳥羽 (1ex., 5-VII-1975)。神崎郡笠形山 (1ex., 12-VI-1966), 大河内町川上 (1ex., 18-VI-

\*産地で [ ] 中のものは記録からの引用, ( ) 中のものは筆者採集, 標本所有のもの。

1977, 4exs., 2-VII-1977, 1ex., 23-VII-1977)。相生市三濃山(1ex., 8-VI-1974)。宍粟郡福知溪谷(1ex., 20-VI-1976), 音水(1ex., 25-VI-1972, 2exs., 24-VI-1973)。養父郡氷ノ山(1ex., 27-VII-1954)。

**2. *Epilichas monticola brunneipennis* NaKane, 1963**  
クロツヤヒゲナガハナノミ

原亜種 *E. monticola* は中根博士によって "Kiso-Fukushima, Iwanadome near Kamikochi, Yunoyama Ise, Serio, Mt. Hiura, Bessho near Kyoto, Shima" の各地産で記載された種である(1952)。

この亜種は上翅が褐色を呈するもので同じく中根博士によって "Mt. Hyonosen, Hyogo, Oku-Mino, Mt. Daihi Kyoto" 産で記載された (Fragm. Coleop. Pars. 10, p. 42, 1963)。

図説は中根博士のものがある(1963)。

兵庫県下での記録は次のものを知るだけで余り分布状況がよくわからない。

産地: 養父郡氷ノ山[中根, 1953, 1956, 1963]。美方郡扇の山[辻, 1963., 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975]。

**3. *Paralichas pectinatus* (Kiesenwetter, 1874)**

ヒゲナガハナノミ

本種も Kiesenwetter が *Odontonyx* 属で "Hiogo, Nipon" を産地に記載された種である(1974)。Lewis は *Paralichas* 属の種に取扱われると共に "Nagasaki, Miyanoshta, Kobe, and Nikko" を産地に挙げられた(1895)。図説は中根博士のものがある(1950, 1963)。

日本の本州, 四国, 九州に分布し、主として水辺に産する種である。兵庫県下でも比較的多いが県北での産地が余り知られていない。

産地: 津名郡[林, 1974]。川西市笹部[仲田, 1978, 1982], 宝塚市北佐曾利(1ex., 13-V-1983, Y. Hachiya-leg.), Hiogo[Kiesenwetter, 1933], Kobe[Lewis, 1895], 神戸市御影[関, 1933], 鳥原(1ex., 7-V-1953, 1ex., 24-V-1953), 山の街(1ex., 30-V-1954, 1ex., 23-IX-1954), 丹生山(6exs., 5-V-1956), 藍那(4exs., 22-V-1978, 1ex., 18-V-1980), 木津(3♂, 1♀, 11-V-1984, 2♂, 1♀, 30-V-1984)。加東郡東条町森(11♂, 18-V-1984, 1♀, 7-VI-1984)。神崎郡大河内町川上(1ex., 7-V-1977)。飾磨郡家島[上田, 1981]。氷上郡[山本, 1958]。養父郡氷ノ山[高橋, 1959]。

**4. *Pseudoepilichas niponicus* (Lewis, 1895)**

クリイロヒゲナガハナノミ

Lewis によって "Nikko and Miyanoshta. Three males and one female" によって *Epilichas* 属で記載された(1895)。

濃褐色で光沢のある小形種である。

図説は中根博士によってされている(1950, 1963)。

日本の北海道, 本州, 四国, 九州に産する種である。山地の流れの近くに見られる種であり時に燈火にも飛来する。兵庫県下での記録は大変少い。

産地: 宍粟郡音水(1ex., 24-VI-1973)。養父郡氷ノ山(1ex., 21-VII-1958, S. Hisamatsu det.) [高橋, 1976]。

**5. *Pseudoepilichas robustior* Nakane, 1963**

オオクリイロヒゲナガハナノミ

本種は中根博士によって "Daihizan, Serio, Kurama, Hanase—Kyoto" の産地で記載された種である (Fragm. Coleop. Pars. 10/11, p. 42-43, 1963)。同博士によって図説されている。

兵庫県下での記録は次のものがあるだけである。

産地: 宍粟郡音水(1♀, 11-VI-1972, S. Hisamatsu det., in his coll.)。

**6. *Drupeus vittipennis* Lewis, 1895**

タテスジヒゲナガハナノミ

Lewis により "Kashiwagi, 15th June 1881, Three males" で記載された種である(1895)。

中根博士によって原色で図説されている(1963)。

北海道, 本州, 四国, 九州に分布している種であるが余り多くいる種ではないようである。兵庫県下からも次のようにしか記録出来ていない。

産地: 養父郡氷ノ山(1ex., 21-VIII-1958, M. Chajō. det.)。

**7. *Ptilodactyla ramea* Lewis, 1875**

コヒゲナガハナノミ

Lewis により "Nagasaki, Fukushima, Oiwake and Nara. Beaten from the dead branches of trees" の産地で記載された種である(1895)。中根博士による解説(1956), 図説(1963)されている。本州, 四国, 九州に分布し山地で得られ燈火に飛来することが多いと。

兵庫県下では割合いるように思われる。

産地: 川西市山原, 笹部[仲田, 1978, 1982]。神戸市布引(1ex., 17-V-1959), 太山寺(2exs., 6-V-1967)。神崎郡大河内町川上(1ex., 4-VI-1977)。相生市三濃山(1ex., 1-VI-1974)。宍粟郡福知溪谷(1ex.,

20-VI-1976)。水上郡(山本, 1958)。豊岡市妙楽寺(高橋, 1975)。養父郡大屋町田淵山(1ex., 25-VIII-1975, M. Uma leg.)。

### 8. *Macroebria lewisi* Nakane, 1952

#### チビマルヒゲナガハナノミ

中根博士によって J. E. A. Lewis が神戸の摩耶山で採集した 1♂(15-VII-1921) とその他に 1♂, Aizu-Wakamatsu., 1♀, Yakushima 産でもって記載された種である (Sci. Rep. Saikyo Univ., No. 1: 37-38, 1952)。同時に同博士による原色図説がある(1963)。

兵庫県下での記録は今の所このタイプ標本以外知られていない。

産地: 神戸市摩耶山(1♂, 15-VII-1921, J.E.A. Lewis leg., Nakane, 1952)。

### 9. *Grammeubria opaca* Kiesenwetter, 1874

#### チビヒゲナガハナノミ

Kiesenwetter によって長崎産で記載された(1874)。中根博士は新宮産で図説され(1948), さらに同博士による図説、解説がある(1950, 1956, 1963)。分布は本州, 四国, 九州で割合いるようである。水辺の葉上等にみられる。

兵庫県下でも個体数は多くなさそうだが広く分布しているように思われる。

産地: 川西市山原, 笹部(仲田, 1978, 1982)。神戸市布引(1ex., 17-V-1959), 太山寺(2exs., 6-V-1967), 芦谷溪谷(1ex., 11-VI-1982)。神崎郡大河内町川上(1ex., 4-VI-1977)。相生市三濃山(1ex., 1-VI-1974)。宍粟郡福知溪谷(1ex., 20-VI-1976)。水上郡(山本, 1958)。豊岡市妙楽寺(高橋, 1975)。養父郡大屋町田淵山(1ex., 5-VIII-1975, M. Uma leg.)。

#### Family Psephenidae ヒラタドロムシ科

### 1. *Eubrianax granicollis* Lewis, 1895

#### クシヒゲマルヒラタドロムシ

Lewis により "Nagasaki and Subashiri. Eight examples." として図入りで記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., vi, 16, p.104, pl.6, fig. 2, 1895)。三輪勇四郎博士が図示され (日本甲虫分類学, p. 133, 1938), 中根博士も図示されている (宝塚昆虫館報, No. 45, p. 13-14, 1948)。尚この中で *E. ramicornis* として図説されたのもこの種のことであり, 中根, 1952)。さらに日本昆虫図鑑 (p. 1108, f. 3176, 1950), 原色日本昆虫大図鑑, II, 甲虫篇 (pl. 72, f. 8, p. 143, 19

63) にも図説されている。

日本の本州, 四国, 九州に産し, 幼虫は水棲で板状。5-6月頃河辺に見られる種である。兵庫県下では余り記録がない。

産地: 川西市笹部(仲田, 1978, 1982)。多可郡鳥羽(1ex., 8-V-1976)。美方郡扇ノ山(辻, 1963., 辻, 岸田, 1972)。

### 2. *Eubrianax pellucidus* Lewis, 1895

#### ヒメヒラタドロムシ

本種も Lewis により "Fukushima, 26th July, 1881, Two examples, both males" として記載された種である(1895)。中根博士によって図説されている(1948, 1963)。

前種に良く似た種であるが前胸は背面中央に太い暗色縦帯を残して橙黄色。觸角, 脚は濃褐色で腿節大部分淡色である。♀は大形。分布は本州, 四国。

山地の水流近くでえられると言うが県下での記録は余り無い。

産地: 神戸市五社 (5 exs., 28-VI-1959)。養父郡氷の山 (1ex., 2-VIII-1953, 3exs., 27-VII-1956)。

### 3. *Eubrianax ramicornis* Kiesenwetter, 1874

#### マルヒラタドロムシ

Kiesenwetter によって Nagasaki, Kiushiu を産地に記載された種である (Berl. Ent. Zeit., 18, p. 247, 1874)。

図説は中根博士の原色のものがある(1963)。granicollis に似るが脚は黄褐色、前胸背前縁は弧状をなし、点刻は細かくて密ではなく、♂の觸角分枝はより長い。本州, 四国, 九州に分布し、本州東北部のものは觸角が濃黄褐色を呈し subsp. *brunneicornis* Nakane (Sci. Rep. Saikyo Univ., 1, p. 40, 1952) と別けられている。

兵庫県下では本種の方が *graicollis* より多くいるようである。

産地: 川西市笹部(仲田, 1978, 1982)。神戸市太山寺 (2exs., 6-V-1957)。多可郡三谷 (1ex., 24-V-1975, 4exs., 8-VII-1975)。印南郡法華山一乗寺 (1ex., 23-V-1965)。水上郡(山本, 1958)。養父郡氷の山 [高橋, 1959]。

### 4. *Mataeosephenus japonicus* (Matsumura, 1916)

#### ヒラタドロムシ

松村松年博士によって Gifu, Kyoto 産で *Betelmis* 属の種として記載された種 (Ins. World, 20, p. 5, 1916)。河野広道博士の図説 (日本昆虫図鑑, p. 1106, f. 31

69, 1950), 中根博士の図説(1963), その他割合多く図説があるので一般に良く知られている種である。分布は本州, 四国, 九州である。

兵庫県下でも広く分布し割合普通に得られる。幼虫は板状で水棲である。

産地: 三原郡猪ノ鼻川中流域〔久松, 1974〕。川西市見野, 大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市鳥原 (1ex., 12-VI-1976), 垂水〔竹中, 1935〕。加西市畑(1ex., 29-VI-1974, 2exs., 13-VIII-1974, 3exs., 27-VII-1974)。三木市内(1ex., 28-VIII-1978)。加古川流域〔西村, 原, 1974〕。多紀郡篠山〔後藤, 1963〕。氷上郡〔山本, 1952, 1958〕。出石郡出石町暮坂〔高橋, 1963〕。豊岡市堀川橋〔高橋, 1975〕。城崎郡円山川流域〔西村他, 1975〕。

5. *Psephenoides japonicus* Masuda, 1935

マスダチビヒラタドロムシ

Masuda 氏により Kyoto 産で記載された種である (Trans. Kansai Ent. Soc. No.6, p.9, 1935)。

中根博士によって図説されている(1963)が特異な形状をしているので同定には困らないと考えられる。兵庫県下での記録は大変少ない。

産地: 川西市大和〔仲田, 1979, 1982〕。加古川流域〔西村, 東, 1974〕。氷上郡柏原〔山本, 1952, 1958〕。城崎郡円山川水系〔西村他, 1975〕。

以上兵庫県産ナガハナノミ科7属9種, ヒラタドロムシ科3属5種を記録したが始めに記したように全く資料不足で個々の種の県下の分布状況も良くわからないし、全般的にもっと分布種が他にもいそうに思われるが一般に水棲甲虫関係の調査が出来ていないように考えられこの方面での今後の調査の必要性が痛感される。

(1984年11月)

(S.45: Toshio Takahashi 神戸市)



兵庫県に於けるエゾスジグロシロチョウの新しい産地

広畑 政己

兵庫県に於けるエゾスジグロシロチョウの分布については広畑(1981)にその概要を報告しているが、その後の調査によって4ヶ所の新しい産地を発見したので報告しておきたい。

これまで県下では40数ヶ所の産地が知られているが、本種は近似種のスジグロシロチョウと酷似するので、スジグロシロチョウとして採集された個体の中に本種が混っているケースも多く、もっと多くの産地があるものと思われる。

この度見つかったのは市川流域の大河内町、福崎町、市川町の各町で、市川町小室、大河内町淵では市川の河原がその生息場所となっている。

県下では山地より平地の方が産地が多く、河原というのは上記2産地の他には同じ市川河原の生野町川尻がある。これらの産地では川原に生育するアブラナ科植物(スズシロソウと思われるが未同定)が食草となっている。このアブラナ科の食草は市川上流の生野町から中流の福崎町まで確認しており、たぶん下流までであると思われるので、姫路までの市川の河原をよく調べれば産地も発見できるとと思われる。

新しい産地の内、他の2ヶ所は福崎町の山崎と大倉山で、ここではスジグロシロチョウと混生している。山崎では採集している22頭中ほぼ3分の1の8頭が本種で、大倉山ではそれぞれ1頭づつ採集されている。これらの産地はいずれも標高100m以下の平地である。

1化の発生は早く、上記産地の内福崎町では3月下旬に始まり、4月の中旬まで採集記録がある。市川町小室、大河内町淵では5月上旬にも採集しているのでだらだらと発生するようである。発表に際し、採集記録を御提供いただいた石井為久氏と調査に御協力下さった近藤伸一氏にお礼申し上げる。

〈採集記録〉

神崎郡大河内町淵	2♂	29-IV-1984	広畑政己
市川町小室	1♂1♀	3-V-1984	広畑政己
福崎町山崎	3♂	28-IV-1982	石井為久
大倉山	1♂	6-IV-1975	石井為久

〈参考文献〉

広畑政己(1981)兵庫県産蝶類分布資料(1) てんとうむし(7): 32-33  
(S28: Masami Hirohata 〒671-22 姫路市)